

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.87

萩ジオパーク推進協議会

| 2022年5月31日発行 |



〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <https://hagi-geopark.jp>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

「地球を食べる食堂（阿武火山群と無角和種）」開講しました！



5月7日、**地球を食べる食堂の第1弾「阿武火山群と無角和種」**を開講し、県内外から11名の参加がありました。まずは阿武町暮らし支援センターshiBanoにて、今回の講師である**阿武町地域おこし協力隊の藤尾凛太郎さん**お手製の**無角和種のスペシャルランチ**を堪能。ランチを食べながら藤尾さんによる無角和種の歴史やお肉の特徴、美味しい食べ方などを学びました。

お腹がいっぱいになったところで、**奈古地区の散策**。奈古地区ではその昔、農作業に無角和種を活用していたことから、無角和種と共に生活していた跡が見られます。また、現在でも奈古から少し離れた宇久地区では休耕田に無角和種を放牧しており、参加者も車窓からですが、休耕田で活躍する無角和種を見て、人々の生活の中に無角和種がいることが実感できたようです。

それから**福賀地区の西台にて放牧場の見学**。無角和種は200頭しかおらず、そのほとんどが阿武町で飼育されており、西台では、雌牛や妊娠牛が主に放牧されています。藤尾さんから飼育方法などの説明を聞きながら、台地を歩きました。また、西台では白井専門員による阿武火山群の成り立ちについての説明や無角和種が放牧されている西台も阿武火山群の1つであり、この平らな広い台地がどうやって生まれたのかを実験しながら解説しました。最後に無角和種と地球を食べる食堂ののれんを背景に撮影。参加者皆さん大満足の充実した講座となりました。

2年振り、現地開催の各種会議に参加しました

5月21日、**幕張メッセ（千葉市）**で**第45回日本ジオパーク委員会公開プレゼンテーション**が開催されました。ユネスコ世界ジオパークの国内推薦を目指す南紀熊野ジオパークとエリア拡大に伴って日本ジオパーク新規認定を目指す霧島ジオパークがプレゼンテーションを行いました。現地審査を担当する委員からは、事前に提出された申請書とプレゼン内容を元に、エリア設定の根拠や人員体制、運営など鋭い指摘がありました。また、この日の午後は、日本ジオパークネットワーク運営会議が開かれ、コロナ禍でも進められてきた会議メンバーによる活動や、秋の全国大会や研修会についての準備状況の報告がありました。

5月22日は、**同会場で日本地球惑星科学連合（jpGU）大会2022のパブリックセッション「ジオパークで学ぶ日本列島の特徴と地球・自然・人の相互作用」**が開催されました。日本列島の地球科学的特徴や地球・自然・人の相互作用を理解するために、6名の招待講演者が日本のジオパークが記録する日本列島形成にかかわる出来事を通じて、日本列島の成り立ちや、その地質と地形がそれぞれの地域の自然やそこに住む人々の暮らしにどう関係したかについて講演しました。6番目にオンライン登壇した合同会社むすひの大岩根尚氏は、ジオパークとして活動する中で大切にしたい本質とは？SDGsや気候変動といった大局に対しジオパークとしてどうかかわるか、という2つの問題提起をされ、ジオパークの取組が包括的に進められるものであると再認識する時間となりました。

公開プレゼンテーション（質疑部分を除く）とパブリックセッションの様子は後日日本ジオパークネットワーク公式YouTubeチャンネル (<https://www.youtube.com/user/OfficialJGN>) で公開されます。ぜひ、チャンネル登録の上、ご覧ください。



令和4年度 萩ジオパーク推進協議会定期総会、戦略会議が開催されました

萩ジオパーク推進協議会定期総会が5月19日萩博物館講座室で開催されました。

令和3年度決算、基本計画・実行計画の見直し、今年度事業計画・予算等すべて原案どおり可決されました。また、故永尾隆志氏からの寄附金の活用について萩ジオパークエリア内に普及啓発に繋がる展示物等を製作、設置とする事務局案を承認いただきました。それを受けて委員の皆様、こんなところに、こんなものを設置したい等要望があれば8月31日までに事務局に連絡するようお願いしました。

このほか今年度実施される再認定審査への対応等について事務局より説明し、最後に脇田顧問、柚洞顧問、長岡顧問にそれぞれお話をいただきました。

令和4年度の推進協議会事業がいよいよ本格的にスタートします。事務局一同皆さんと一緒に実り多き1年となる様頑張ります。引き続きご協力をお願いします。



戦略会議を5月20日萩・明倫学舎で開催しました。

脇田戦略顧問、柚洞戦略顧問と今年度行われる再認定審査について意見交換を行いました。審査を実際に行う側の立場から、どのようなところを見るか等アドバイスをいただきました。

5/15、ジオツアー「萩焼作家さんに会いに行こう」を実施

萩の大地と向き合っ暮らす方々のお仕事や日常生活に触れるジオツアー「〇〇さんに会いに行こう」の一つ、「萩焼作家さんに会いに行こう」の実施依頼があり、白井専門員がご案内しました。県外から毎年のように萩に研修に来られている方々で、30名のお客様をご案内しました。訪ねたのは、このツアーでいつもお世話になっている坂高麗左衛門窯の坂悠太さん。職人の視点や坂さんご自身の作陶にかける思いにたっぷりと触れました。専門員からも萩の大地と萩焼の深い関わりについて解説させていただき、より深い感動を味わっていただけたことと思います。

今回の企画は、萩ジオパークパートナーでもある八千代酒造の蒲さんからご紹介いただいたのがきっかけです。素敵なお縁につながり、広がっていくのを感じました。



5/16、食生活改善推進協議会で講演しました



食を通して地域の健康づくり活動に取り組んでいる萩市の「食生活改善推進委員」の皆さんに、白井専門員が食を題材に萩の大地と人のつながりについてお話ししました。萩の多種多様な海産物や農産物、日本酒、そして器としての萩焼を題材に、萩ならではの地質や地形との深い関わりを解説しました。「何時間でも聞いていただける」という嬉しいお言葉もいただきました。

食推の皆さんは、料理教室をはじめ、食に関する様々な取り組みを活発に行っておられます。今年はこの研修を受けてジオパーク的な視点も取り入れた内容の企画をつくっていくそうです。今後一緒に活動できたら楽しそうですね！

5/24、長門峡スケッチ大会で大地のお話



山口市阿東地域にある3つの小学校（徳佐小・さくら小・生雲小）が合同で行う、長門峡スケッチ大会に白井専門員がお邪魔しました。スケッチを始める前に、長門峡の景色に秘められた大地の物語を、地図や模型を使った解説と現地見学でお伝えしました。

長門峡スケッチ大会でのお話は、5年前に萩ジオパークパートナーでもあるNPOあとうさんにお声がけいただいたのがきっかけで、それから毎年のようにご依頼をいただいています。こうして継続的に繋がりを持っていることの素晴らしさを感じる機会でもありました。

＼ 6月開催！ ／

「地球を食べる食堂（萩三角州と焼き抜き蒲鉾）」

食を切り口に「大地と人のつながり」に触れ、大地と向き合うことの大切さを学ぶ講座、「地球を食べる食堂」の第2弾を開講します。第2弾は焼き抜き蒲鉾。焼き抜き蒲鉾は、縁起の良い食材としてお祭りやお祝い事にも使われる食材であり、また、萩が発祥の地だと言われています。そんな私たちに馴染み深い焼き抜き蒲鉾の歴史や美味しさを料理人の視点、生産者の視点、大地の視点から紐解いていきます。詳細は下記をご覧ください！



萩ジオパークパートナーの内八商店、内田さんのご協力のもと、萩市場の競りを見学させていただきました。

内八商店は100年以上の歴史をもつ卸売業者であり、東京の豊洲市場、大阪の中央卸売市場などの大きな市場にも取引があります。今の社長である内田謙一郎さんは5代目になります。

この日は今が旬の甘鯛やイサキなどがずらりと並べてありました。1番競りの開始は午前2時。2時になったのと同時に仲買が競り子の周りに集まり、競りが始まります。競り子の掛け声からほんのわずかで落とされていきます。

内田さんも次々と魚を買っていき、「内八」の札がどんどん魚の上に置かれます。

競りが終わると内田さんやお手伝いの方が魚の箱を作業スペースに集め、魚の大きさや質などを見極めて選別し、丁寧に梱包していき、こうして萩の魚が全国各地に配送されていきます。

萩の恵まれた大地で育ったたくさんの美味しい海産物が全国で食されるのも内八商店のような卸売業者のおかげ。今回の見学で、こういった地場産業をテーマに何か講座が出来たらと思います。強くなりました。

萩ジオパークパートナー活動報告 内八さんと萩の魚のセリ見学

6月の予定

● 地球を食べる食堂2022 #02 「萩三角州と焼き抜き蒲鉾」 6月4日（土）12:00～15:00 集合場所：旧山中家住宅（浜崎地区） 内容：萩が発祥の地と言われている“焼き抜き蒲鉾”をテーマに、大地の視点、生産者の視点、料理人の視点から現地を巡り、味わう 主催・問合せ：萩ジオパーク推進協議会（0838-21-7765）

○ geoとも（萩ジオ友の会）定例会「ジオ探訪」 6月18日（土） 内容：小川地区（原山台、上の原台など）を探訪 主催・問い合わせ：geoとも 桂（0838-21-7173）、中西（080-8747-9383）

○ 笠山ジオの会 笠山噴火実験&火口見学ミニツアー 内容：地元越ヶ浜の皆さんを中心に活動する「笠山ジオの会」が、笠山山頂を舞台に笠山の成り立ちが分かる実験と火口見学ツアーを開催 開催日：6月11日（土）、25日（土） 時間：13:00～、14:00～、15:00～の1日3回。各回所要時間15分 料金：高校生以上200円、小中学生100円、乳幼児無料 受付：当日現地受付。先着10名

ほんた がんばれ!半田くん



原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第64話 貧困をなくそう

ひんこん



第65話 飢餓をゼロに

きが



わっきー教授のつばやき

今回からSDGsの17の目標について、半田くんたちが考えていくことになります。みなさんも、一緒に考えてくださいね。笠山つばきちゃんや、田床山美ちゃん、佐々並子ちゃん、須佐みことくん、伊良尾龍くんたちは、真面目に考えていますね。それに引き換え、半田くんは、相変わらずダメな奴だなあ…でも、許してあげてください。彼がずっこけないと、四コマ漫画にならないのです。根は良い奴だから許してください。SDGsの理念にもあるでしょう？「誰一人取り残さない」って。半田くんも取り残さず、応援してあげてください。

今回のお話は、SDGsの目標1「貧困をなくそう」、目標2「^ま飢餓をゼロに」です。日本にも貧困や飢餓はありますが、世界各地の貧困や飢餓とは程度や規模が異なります。世界では、3億5600万人の子供達が「極度に貧しい」暮らしをしています(ユニセフHP)。世界には、約21億人の子供がいるので、指月先生が述べているように「6人に1人」の割合になります。この「極度に貧しい」というのは、1日の生活費が200円(1.9米ドル)以下の子供達のことです。200円あったら、カップラーメンくらい買えるじゃないと思うかもしれませんが、生活費には、住居費、医療費、食費、水、電気などすべての費用が含まれるので、ほとんど食べるものはありません。2日に1回のパンのかけらで暮らしている子供達もいます。ですから、第1の目標の貧困と第2の目標の飢餓は、密接に関連しているのです。子供だけではなく、大人も同時に貧しいので、この貧しい人々を2030年までに現在の半分まで減らすことが具体的な目標とされています。2000年以前には、貧しい人々は東アジ



アに多かったのですが、中国の経済成長などで60%から3.5%に減って



います。逆にアフリカ南部では、貧しい人々が増えています。このことは、途上国の経済状態を改善すると、貧困者数が減少し、紛争地域では貧困者数が増加することを示しています。

私たち一人一人は、SDGsの目標の「貧困」や「飢餓」の問題に対処するのは、困難です。しかし、世界の現状を学び知ることは必要です。また、直接的あるいは間接的に、貧困者や貧困国を経済的に支援することも可能です。ユニセフを始め、多くの団体を通じて寄付することができます。日本では、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンという公益社団法人もあります。直接の支援をしなくても、フェアトレードの商品を購入することで、開発途上国の経済を助けることができます。でも、このような実際の行動を行わないことを恥じる必要はありません。ジオパーク活動自体が、地球を学び、心を世界に広げる活動でもあります。まずは、ジオパーク活動の中で、地域のジオは地球全体につながっていることを学び、地球を大切に、世界の人々を大切に、そう感じて、その思い、そして最後に行動へ向かうモチベーションになれば、良いのだと思います。

参考文献：(ユニセフHP)

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/1-poverty/>